

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	0673000519
法人名	株式会社 互惠
事業所名	グループホーム「ママ家」
訪問調査日	平成 20年 12月 4日
評価確定日	平成 21年 1月 14日
評価機関名	株式会社 福祉工房

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月8日

【評価実施概要】

事業所番号	0673000519		
法人名	株式会社 互恵		
事業所名	グループホーム「ママ家」		
所在地	山形県鶴岡市常盤木字関口103-3 (電 話) 0235-78-7900		
評価機関名	(株)福祉工房		
所在地	宮城県仙台市青葉区国見ヶ丘六丁目149番地1		
訪問調査日	平成20年12月4日	評価確定日	平成21年1月14日

【情報提供票より】(20年10月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 年 月 日 15年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤	16人, 非常勤 4人, 常勤換算 7人

(2)建物概要

建物形態	併設 (単独)		新築/改築
建物構造	木造瓦葺 造り		
	一部 2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	19.950 円	その他の経費(月額)	24.000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100.000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 (無)
食材料費	朝食	250 円	昼食 270 円
	夕食	360 円	おやつ 120 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	11 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.28 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	佐久間医院、佐久間歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の尊厳を第一に考えた支援を目指していると同時に、地域に対しても、単にボランティアを受け入れると言うことではなく、より積極的な働きかけを行っており、施設内通貨を造り、これにより事業所の利用者の楽しみの増加だけでなく、地域起しにまで繋がるような斬新な取り組みを行っている。隣接する法人内の他の事業所(グループホーム、有料老人ホーム)との連携により認知症通所介護事業も展開され、地域との連携は非常に強くなっている。利用者の社会参加の機会も増えるよう取り組まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題はありません。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員に評価の意義を理解してもらう為に、個々の職員に記入をしてもらい、それを主任会議、ユニット会議で検討し、最終的に管理者がまとめるようしている。その過程において事業所としての目指す方向性についても確認をしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催。メンバー構成も多彩で、意見交換、今後の目標や課題についても話し合いが持たれている。更に地域活性化のための事業所の役割についても話し合いがされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の意見や不満は家族会や、日々の情報交換から汲み取って、主任会議等で検討し対応している。又、運営推進会議でも公表し検討を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の一員として協力費(町内会費)を納め、総会や会合に参加している。又、行事で外出する時はボランティアが協力してくれている。事業所内の資源を地域に解放し積極的に地域との馴染の関係を築くよう努力をしている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	互恵の精神「互いに認め合い、感謝し合い、恵み合える社会を目指す」を法人理念にしている。これをもとにグループホームの理念も作成されており、お互い「お役立ち」の関係を築いていくことを目的とした「互恵」を理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月刊の広報誌「ファミリー」に介護理念に基づく介護方針が連載されている。月1回の主任会議、ユニット会議、日々の職員のミーティング等でも理念を踏まえた実践方法を説明している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の一員として協力費(町内会費)を納め、総会や会合に参加している。又、行事で外出する時はボランティアが協力してくれている。事業所内の資源を地域に解放し積極的に地域との馴染の関係を築くよう努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に評価の意義を理解してもらう為に、個々の職員に記入をしてもらい、それを主任会議、ユニット会議で検討し、最終的に管理者がまとめるようしている。その過程において事業所としての目指す方向性についても確認をしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。メンバー構成も多彩で、意見交換、今後の目標や課題についても話し合いが持たれている。更に地域活性化のための事業所の役割についても話し合いがされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の取り組みに関し、県や市町からも議員が視察にも来ており、情報提供や協議を通じて連携は取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、月刊「ファミリー」を発行し事業所の状況について報告し、個々の利用者の生活の様子、金銭管理等は職員が報告している。健康上の問題に関しては必要に応じて看護師から説明している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の意見や不満は家族会や、日々の情報交換から汲み取って、主任会議等で検討し対応している。又、運営推進会議でも公表し検討を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内にグループホーム、及び有料老人ホームが隣接しており、行事等は普段から一緒に行われており、顔見知りの関係が出来ている。又、日常も交流を持っており、異動による影響は少ない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習熟度に合わせ研修が行われている。又、ミーティング時において実践状況の報告、アドバイス、ケース検討などが行われている。職員の資格取得についても積極的に対応している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会を通じての交換実習や、他の事業所との職員交流、異業種との交流研修を積極的に行っている。又、事業所において介護実技講習会を開催している。サービスの質の向上を図る取り組みを行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事を中心として、雑巾作り、干し柿作り等、日々の役割を持った活動をしている。その中で職員は利用者の不安や喜びを知ること努め、共に支えあえる関係作りに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の観察による情報から利用者の意向や希望を把握するよう努めている。計画作成の勉強会でも利用者のニーズが把握できるように指導をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者の勉強会を月1回開催し、ケース担当者を中心にユニットでケース検討を行い、介護計画を作成している。必要に応じて家族、看護師等の参加もある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況変化が起きた場合は計画を変更して毎日のミーティング等でその内容を具体的に指示するようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得ら れたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を聞き、かかりつけ医を継続する か、協力医にするかを決めている。事業所の協力医は 月2回の往診と、緊急時には夜間対応してもらえる関係 になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	入所時に家族の意向を伺い、事業所の方針を説明し ている。重度化や終末期に関する指針は作成してあ る。今後、家族会と話し合いを持ち、家族会の総会で 承認を得た後、確定させる予定となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	経営者、管理者は職員間の会話や利用者に対しての 言葉づかいについては、利用者の自尊心を傷つけない よう日常から指導、又、気が付く度に注意をしてい る。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重しながら、食事や入浴などは行 われている。その日、その時の利用者の気持ちを尊重 している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下膳や後片付け等は職員と協働でしている。外食は近隣の食堂から出張してもらったりして外食の機会を作るようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は1日置きで夜間(PM8:00)に実施している。希望すれば他の時間や毎日でも対応できる。隣接の(有料老人ホーム)に温泉入浴設備があり、希望があれば利用できるになっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事、カラオケ、散歩を楽しむための専門職(カラオケの先生等)を活用しながら支援している。又、施設内通貨を作成し、これにより利用者の意欲や楽しみを増やせるよう工夫がなされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	臨機応変に対応できるように職員を配置している。戸外の活動を規制しないよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	鍵をかけない暮らしの大切さについて職員は良く理解しており、リスクを配慮しながら日中玄関や居室は鍵をかけていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人で年1～2回消防署が参加して避難訓練を実施している。防火対策委員会を作り連携と声掛けを中心に、夜間想定して消火、通報訓練をしている。又、近隣の協力が得られるよう、サイレンの設置や、運営推進会議等を通じて依頼を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師と連携して、血液検査で健康状態を把握している。食事形態も特殊栄養食やゼリーを使うなど工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に台所があり、茶碗を洗う音や香りが生活を感じさせる。又、季節の花や鉢植えが置かれ、居心地よく過ごせるよう工夫、配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談して、馴染の物を持ち込んで居心地よく過ごせるように配慮されている。		